太平洋イカ類漁場調査　— 抄録 —

鈴　木　史　紀・黄金崎　栄　一*

発　表　誌　名

イカ釣り漁場開発調査資料19号（平成６年５月）及び平成５年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集（平成６年５月）　　青森県水産試験場

抄　　録

太平洋イカ類漁場調査

平成５年６月～10月に東経149度以西の太平洋海域において、試験船「東奥丸」と「開運丸」でスルメイカ・アカイカの北上期から南下期の群を対象に漁場調査を実施した。

スルメイカ

1．水揚げ動向について

八戸港での水揚げ量は9,707トンで昨年の35％増で、ここ10年間で最も高い水準であった。

ＣＰＵＥ（１日１隻当たり漁獲量）も水揚げ量と同様に高かった。

初漁日は６月28日で昨年並であった。

大畑港での水揚げ量は5,312トンで、ここ10年間で最も高い水準であった。

ＣＰＵＥ（１日１隻当たり漁獲量）は879kgで水揚げ量と同様に高かった。

2．分布密度について

試験船による６月下旬のイカ類一斉調査では、沿岸域よりも沖合域で高かった。漁期盛期の８月下旬のイカ類一斉調査では、尻屋崎沿岸域と鮫角の沖合域で高かった。

3．群　の　性　状

６月～10月に太平洋沿岸域に来遊したスルメイカの群構造は、外套長組成並びに成熟、交接状況から同時期に発生した群が順次本県沿岸域に来遊したものとみられる。

アカイカ

1．水揚げ動向について

釣り漁場（東経170度以西）からの凍結アカイカの水揚げ量（八戸港）は7,973トンで '92年の4.7倍であった。

2．群の性状について

６月下旬に実施した漁獲試験の中で、６月20日、北緯37度48分・東経144度05分の海域で小型イカ（モード25cm）の群れと、30cm以上の大型イカ（モード30・35cm）の出現がみられた。他の漁獲試験ではモードは18から20cmで1993年に主たる漁獲対象となる群で占められていた。

調査期間を通じて、雄の成熟及び雌の交接個体は認められなかった。

＊現青森県水産増殖センター（青森県栽培漁業公社派遣）